

社会科授業案

野依小学校

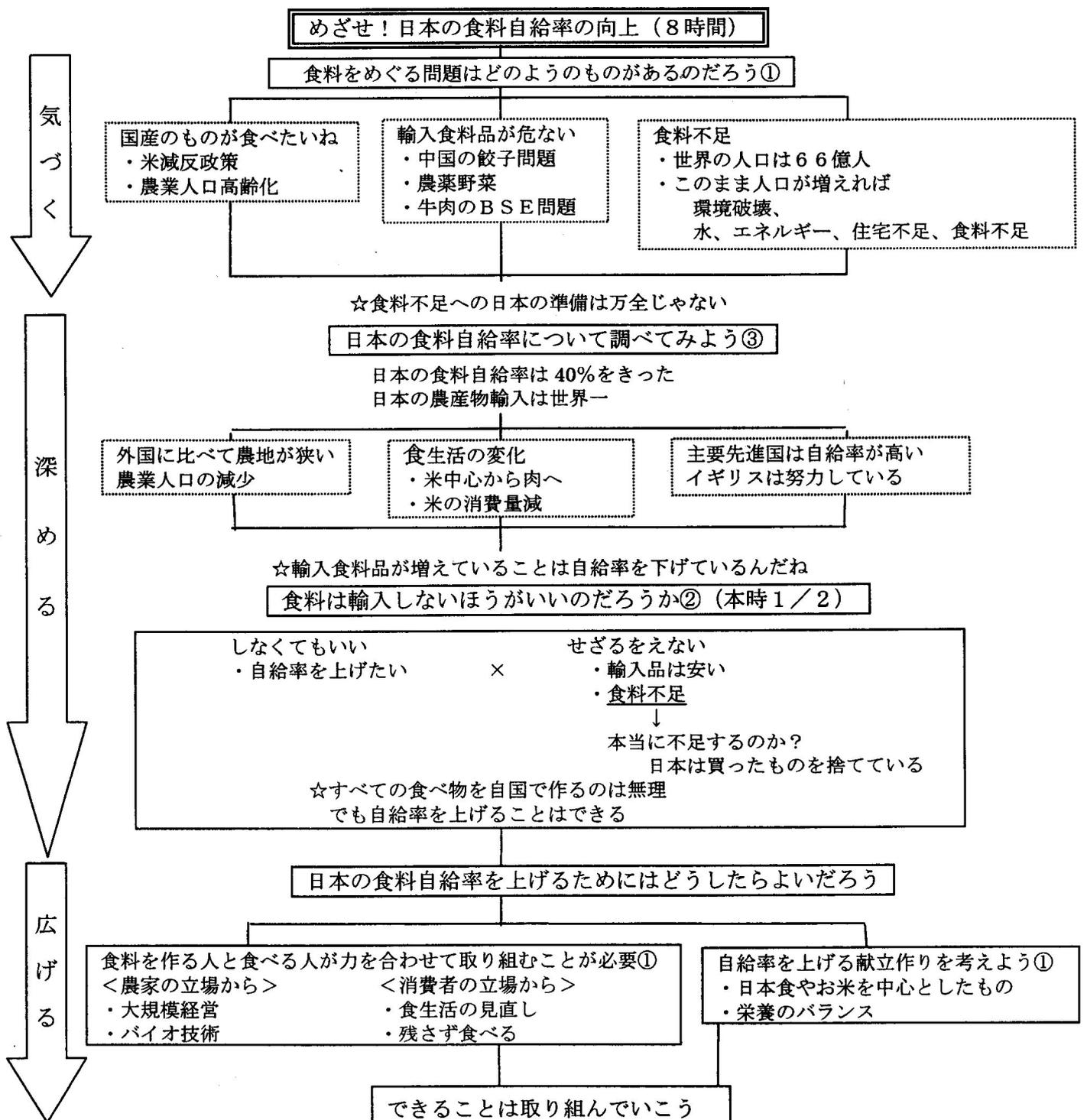
朝倉 正子

1 単 元 めざせ！食料自給率の向上

2 目 標

- (1) これからの食料生産に見られるさまざまな問題を、自分なりの方法で調べることができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 日本が直面する食料不足に問題意識を持ち、これからの食料生産のあり方について、自分なりの考えを持つことができる。(思考・判断)
- (3) わが国の食料生産の問題点をグラフなどの資料から読み取り、図書館の本やインターネットなどを活用して、これからの食料生産について調べたことを分かりやすく表現することができる。
(技能・表現)
- (4) 自給率の低下によってもたらせる問題点をまとめ、これからの食料生産のあり方について、理解しようとしている。(知識・理解)

3 単元構想 (8時間完了 本時間6/8)



4 本時の指導

(1) 目標

- ・自給率の低下に大きくかかわっている輸入食料品について話し合う中で、これからの食料生産について考えることができる。(思考・判断)

(2) 授業にあたって

5年の子どもたちはお米が好きである。米飯給食のとき残食としてお米が残ったことは一度もない。総合の学習で米づくりに取り組んでいる子どもたちは、輸入米より国産米が食べたいと答える子どもたちがほとんどである。子どもたちは、主要先進国自給率推移のグラフを見て、25年前に比べどの国も自給率を上げてきていることに驚いている。特に戦前自給率が30パーセントを切り、25年前は日本とほぼ同じ自給率だったイギリスが、自給率を上げる努力をしてきたことに関心を示してきた。

しかし、現在日本では自給率は年々下がり輸入食料品が増えている。子どもたちなりに自給率が下がっている理由を考える中で、本時は、輸入食料品の増加に焦点をあてる。前半は輸入食料品についていろいろな思いを出させる。後半は食料不足になるという意見に対し子どもたちに新しい視点を与えたい。輸入食料品の問題点として、食品の安全性を取り上げられることは多い。しかし、食料の60%近くを輸入にたよりながら、多くの食料を廃棄しているという事実を教科書では取り上げられていない。本時は、輸入しないと食料不足になるという子どもたちに、日本では農業生産額とほぼ同額の食料品が毎年廃棄食品としてごみに出されている実態を伝えることで、改めて自給率を考えさせる授業である。

日本の農業は現在厳しい状況に追い込まれている。しかし、これからの食料事情や諸外国の動きを考えるといつまでも輸入にばかりにたよってはられない。いかにして日本の農業を再生していくかが課題である。具体的な問題の対策を考えることは子どもたちにとって難しいが、この授業を通してこうした認識を5年生の子どもたちなりに「日本の農業はこれでいいのか」「自分たちにできることはないのか」ときちんと受けとめ、自らの食生活のあり方を振り返ることができるようにつなげていきたい。

- (3) 準備 教師：新聞の折込広告 京都新聞を子ども用に読みやすくしたもの
廃棄食品についてのアンケート結果 配布資料

(4) 展開

